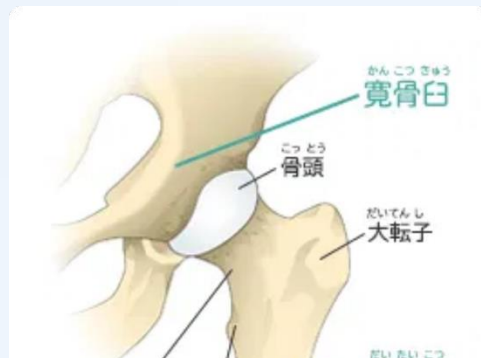


人工股関節置換術

説明書

患者様へのご説明と同意について



i はじめに

この説明書は、
人工股関節置換術（Total Hip Arthroplasty, THA）
に関する詳細な情報を提供し、患者様の同意を得るためのものです。

手術の適応、メリット、可能性のある合併症についてご説明いたします。

本同意書をよくお読みいただき、理解した上で同意書へ署名をお願いします。

⚠ 重要なお知らせ

ご不明な点がございましたら、遠慮なくご質問ください。



 丁寧にご説明いたします



手術の適応

人工股関節置換術は、以下のような症状や状態がある患者様に適応されます

重度の股関節痛

日常生活に支障をきたす程度の痛みがある場合

股関節の変形

股関節の変形や機能障害がある場合

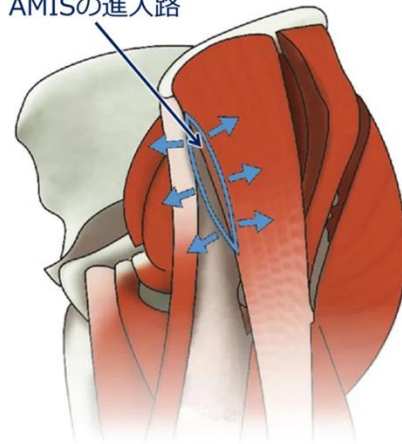
日常生活への影響

歩行や階段昇降が困難になった場合

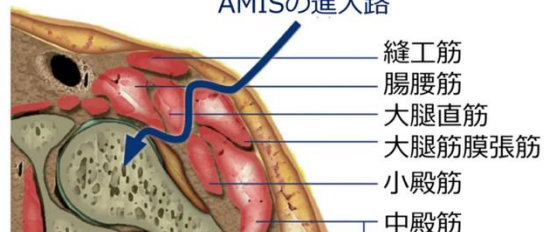
保存療法の限界

薬物療法、理学療法などが効果を示さない場合

AMISの進入路



AMISの進入路



◎ 手術の目的

主な目的

♥ 痛みの軽減

🚶 機能の改善



★ 生活の質の向上 ★



歩行改善



日常生活



笑顔の毎日

手術の概要① - 麻酔・手術手順

麻酔について

● 全身麻酔

● 硬膜外麻酔

● 脊椎麻酔

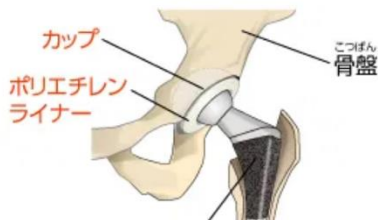
 専門の麻酔科医師に一任しております

手術手順

1 切開
股関節外側に約10cmの切開を加えます

骨の除去
傷んだ骨や余分な骨を除去します

3 人工関節の挿入
金属またはセラミック製の人工関節を挿入し、骨に固定します



🕒 手術の概要② - 手術時間

🕒 手術時間

1～2時間

通常の手術時間

手術室での全体的な流れ



入室
準備開始



麻酔導入
約30分



手術
1～2時間



退室
回復室へ

メリット

痛みの大幅軽減

股関節の痛みが大幅に軽減し、快適な日常生活を送ることができます

→ 痛みから解放

機能の改善

股関節の機能が改善され、スムーズな動作が可能になります

→ 動きやすさ向上

日常生活の改善

歩行、階段昇降、家事などの日常動作が改善されます

→ 自立した生活

生活の質向上

これらの改善により、全体的な生活の質が向上します

→ 充実した毎日



⚠ 合併症① - 感染・血栓症

★ 感染症（1%以下）

リスク

手術部位の細菌感染のリスクがあります

予防策

抗生物質で予防しますが、感染時は再手術の可能性があります

重度の場合

インプラント抜去の可能性もあります

注意点

数年後に他の部位の感染（虫歯、水虫、扁桃腺炎など）から血流を介して感染することもあります

💧 血栓症

リスク

主に下肢の血管内に血栓が形成されるリスクがあります

予防策

ストッキング、フットポンプ等を行います、足関節の自動運動が最も効果的です

重篤な合併症

血栓が肺に移動し肺塞栓症を発症すると致命的（0.1%以下）になることがあります

エコノミークラス症候群の予防のために

○ エコノミークラス症候群とは

食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰

⚠ 合併症② - 脱臼・骨折・神経損傷

🦴 脱臼（1%以下）

リスク

人工関節が脱臼するリスクがあります

予防法

下肢の動かし方で予防できるため、適切なリハビリと注意が必要です



正しい動作が重要

🩹 骨折（1%以下）

リスク

骨が弱い場合、術中術後に骨折することがあります

対処法

追加の手術や処置が必要になることがあります



適切な治療を行います

🧠 神経損傷（1%以下）

リスク

手術中に神経が損傷するリスクがあります

症状

感覚障害や筋力低下が生じることがあります

対応

リハビリ期間の延長や装具が必要になることがあります

合併症の発生確率

99%
問題なく回復

vs

1%以下
合併症のリスク

⚠ 合併症③ - 人工関節の劣化・金属アレルギー・その他

⚙ 人工関節の劣化

経年劣化

経年劣化し、再置換術が必要となる場合があります

耐久年数

⌚ 20年間

一般的な耐久年数と言われています

🦋 金属アレルギー

リスク

金属に対するアレルギー反応が起こる可能性があります

重度の場合

インプラント抜去を要することがあります



事前検査で確認

⋮ その他の合併症



肺炎



心筋梗塞・不整脈



脳梗塞

消化管出血

尿路感染症



予測不能な合併症

ⓘ これらは手術の有無に関わらず入院中に発症する可能性があります



上記以外の予測不能な合併症が生じ、致命的・不可逆的な状態となる可能性もあります



術後経過とリハビリテーション

🏥 入院期間

3～4週間

入院していただき、
リハビリテーションを行います

🏥 リハビリテーション



歩行訓練



筋力強化



可動域訓練

理学療法士の指導のもと、専門的なリハビリを行います

📅 フォローアップ

6週

3ヶ月

6ヶ月

1年

以後半年ごと



専門スタッフ

理学療法士が丁寧にサポートします



回復への道のり

臨床研究へのご協力について



医学の発展のために

使用させていただくデータ



身体所見



採血データ



画像所見

プライバシーの保護

 匿名性を厳守したうえで使用いたします

使用目的

学会発表



論文作成



未来の患者様のために

皆様のご協力により、より良い治療法の開発に貢献できます

同意について

ご理解いただけましたでしょうか？

本説明書をよくお読みいただき、ご理解いただけましたでしょうか。

ご質問をお受けします

ご不明な点がございましたら、遠慮なくご質問ください。



同意書への署名

ご理解・ご納得いただけましたら、同意書へのご署名をお願いいたします。

安心してお任せください



信頼関係

患者様との信頼関係を大切にします



安全で確実な医療